

## カジノ法案「数の力」強気の自民

何とも腹立たしい国会運営だ。朝日新聞 12 月 3 日朝刊が詳しく報じている。リードから一自民党が採決を強行して可決させた統合型リゾート (IR) の整備を政府に促す議員立法「カジノ解禁法案」。ギャンブル依存症など数多くの問題点が残る中、日本維新の会とタッグを組み、渋る連立パートナー公明党を押し切った。夏の参院選で確立した「数の力」が強気の背景にある。



法案は議員立法だが、カジノ推進の旗振り役は、政権幹部そのものだ。安倍晋三首相はシンガポールでカジノを視察した際に「日本の成長戦略の目玉になる」と語り、法案を提出した超党派の議員連盟の元最高顧問でもある。カジノ参入を狙うゲーム・パチンコ機器大手セガサミーホールディングスの経営者とは会食したり、家族の披露宴に招かれたりする仲だ。首相側近の萩生田光一官房副長官は 10 月まで議運事務局長。菅義偉官房長官も推進派で、審議入りした 11 月 30 日、周囲に「この国会で必ず成立させる」と自信をにじませた。推進派の自民議員は「首相や官房長官が推進の立場だったのが大きい」と振り返る。

自民にとって、最大の援軍となったのが維新だ。与野党で賛否が分かれた補正予算や TPP 承認案などにいずれも賛成するなど、今国会の重要局面で常に協力してきた。その裏で、自民との幹事長、国対委員長会談を重ね、カジノ法案成立を働きかけた。維新議員は「賛成の見返りが、IR と大阪万博、リニア新幹線の大阪延伸だ」と言い切る。自民と維新の接近に気おされたのが公明だ。自主投票を決め、法案の付帯決議によって、かろうじて体面を保とうとしている。首相が悲願とする憲法改正の発議には、数のうえで公明も維新も必要になる。衆参で単独過半数を握った自民は、国会運営で公明と維新両党をてんびんにかける余裕が生まれる政治状況がはっきりしてきた。維新の幹部は「政界の力学が変わった」と語った。

「万博とのセットで大阪に圧倒的なぎわいをつくりたい。今国会で成立させてほしい」維新代表の松井一郎・大阪府知事は 2 日、衆院委員会の可決を受けて強調した。維新幹部は「今国会での成立が、松井代表の至上命令だった」と明かす。維新が採決を急ぐよう働きかけたのは、2025 年に大阪での開催を目指す万博に IR 誘致が欠かせないと認識があるため。大阪市湾岸部の人工島「夢洲」は万博の会場候補地。いずれの事業も地下鉄の延伸など大規模なインフラ整備が必要で、松井氏は IR 事業者の一部の事業費を負担してもらうことを期待。万博の跡地利用の課題も解決できると計算している。

(2016 年 12 月 6 日)